

外宮さんのまち・山田

お

き

ひき

御木曳のまだ 知らない魅力

~地域と心をつなぐ伝統行事in曾祢町~



本曳



どんでん場



帰り車

立命館大学

食マネジメント学部 高田ゼミ

TABLE OF CONTENTS

御木曳と木遣りについて	03
曾祢町とルートマップ	04
御木曳の行程	05
初曳・どんでん場	06
上せ車	07
帰り車	08
ここだけの御木曳話	07-10
Part 1 ワンナリ	
Part 2 はっぴ	
Part 3 グルメ	
Part 4 御木曳の未来	

●本冊子について

本冊子は、伊勢伝統行事である御木曳の魅力をより多くの人に知ってもらうために、立命館大学 食マネジメント学部 高田ゼミ 魅力発信班の学生4名が製作しました。

●企画した理由

令和8年度から御木曳が始まることもあり、今回は公式の資料のようなかしまったものではなく、ちょっとした裏話を中心にまとめることで、気軽に手に取って貰える親しみやすい冊子にしたいと考えました。

そのため、曾祢町奉曳団の奥田宗吾さんにインタビューを行い、曾祢町の取り組みや準備の様子、そして普段はあまり語られない裏話や写真などを交えながら紹介していきます。

(奉曳団は曾祢町以外にもあります)

●こんな人に読んでほしい！

本冊子は、新しく伊勢に来られた方や、前回の遷宮を経験していない若い世代、そして伊勢の歴史や文化をあまり知らない観光客の皆さんに、ぜひ手に取っていただきたい1冊としました。「御木曳ってこんなに面白いんだ」「こんな人たちが支えているんだ」と新しい発見を楽しみながら次の御木曳をより身近に感じてもらえるきっかけになればと思います。

御木曳と木遣りについて

おきひき

●御木曳とは？

御木曳は、伊勢神宮の式年遷宮のために使う御用材を、人の力で神宮まで運ぶ行事です。20年に一度、伊勢のまち全体が盛り上がる大きなお祭りとして行われます。

行事には、川の中を木のソリで運ぶ「川曳^{かわびき}」と、陸の道を奉曳車^{ほうえいしゃ}で運ぶ「陸曳^{おかびき}」があります。どちらも、はっぴ姿の人々が木遣り唄をうたいながら力を合わせて綱を曳き、木を運ぶ姿が見どころです。

御木曳は、550年以上続く伝統行事で、国や伊勢市の無形民俗文化財にも指定されています。昔から変わらず、伊勢の人々の誇りとして受け継がれています。

きやり

●木遣りとは？

木遣りは、昔から材木を運んだり、城を築いたりするときにうたわれてきた労働歌です。伊勢では御木曳の時や神事などのお祝いの場面でうたわれ、「伊勢音頭」のもとになったともいわれています。

お木曳でうたわれる木遣りには、荷締木遣り^{にじめ}・本木遣り・子ども木遣りなど、いくつかの種類があります。歌詞には地域の特色が込められ、時代に合わせて少しずつ歌い方が変わるなど、各団ごとに個性があります。

木遣りをうたう人が手に持つ「采^{さい}」は、全体の動きを合わせるための合図に使う道具です。陸曳では短冊状の和紙を束ねた紙製の采を、川曳では水に濡れても破れにくいよう、スギやヒノキを薄く削った木製の采を使っています。

詳しくはこちら！



どんでん場で木を清める様子



曾祢町とルートマップ

● ^{そね}曾祢町について

伊勢市中心市街地に位置する曾祢町は、外宮や宮川にも近く、観光や散策にも便利な場所で周辺には商店街や飲食店も点在しています。

●御木曳ルートマップ

【本曳】

宮川の堤防沿いで「どんでん場」を行い、外宮を目指して御神木を曳いて進みます。沿道には多くの見物客が集まり、地域全体が一体となって盛り上がります。

【帰り車】 ■■■■➡

外宮への奉納を終えた後、曾祢町公民館まで飾り付けられた奉曳車と共に帰っていきます。奉曳団員が再び町へ戻る姿は、達成感と喜びにあふれ、御木曳の締めくくりとして地域の絆を深める大切な時間となっています。



御木曳の行程

曽祢町ver.



●のぼせぐるま上せ車

奉曳車を本曳のスタート地点まで提灯で飾り付けをして曳いていく



●どんでん場

提灯を外して宮川堤防に集合し、木を積んで出発準備
木をソリに乗せて坂を下り、川に入って水に浸す
「どんでん場」を数回行う→清めの儀式



●ほんびき本曳

神宮正面へ進み、木を納める
クライマックスは神宮北御門への「エンヤ曳」



●帰り車

提灯や飾りをつけて公民館まで戻る
無礼講でわいわい楽しみながら帰る

初曳・どんでん場

ここからは、奥田宗吾さんにインタビューした内容をもとに、御木曳の流れを簡単にご紹介していきます。



Q 初曳とはどんな行事ですか？

A

御木曳の始まりを告げる行事で、奉曳車で町内を巡行します。本番の一カ月前に行い、初めて参加する人はここでコツを学びます。参加後は、皆さん汗だくになります。



Q 当日はどんなことをしますか？

A

宮川の堤防の坂から木をソリに乗せて、川に入れます。その後、木を3回ほど沈めて清め、「綱先まいさきいいか、綱元まいもといいか、オー！」の掛け声で曳行、というのが代表的な流れです。



Q 実際に体験してどんなところに感動しましたか？

A

川に入って泥だらけになる体験、木を沈める際の「どんでん場」の迫力、観客の大歓声と一体感、そして木を引き切った達成感が魅力です。



製作者の
つぶやき

本冊子を制作するにあたり、地域の方から「初曳は一体感を味わえる行事だよ」と伺いました。準備や段取りは大変ですが、その分、当日の熱気と歓声が特別な思い出になりそうです。



Q 上せ車とはどんな行事ですか？

A

前日の夜に公民館からスタート地点まで台車を運ぶ行事です。提灯を飾り、ろうそくを灯して進むため、にぎやかで幻想的な雰囲気になります。町ごとに工夫があり、華やかさと遊び心がでるのが特徴です。



ここだけの 御木曳話 part 1

御木曳は“耳”でも楽しめる！

ボオオオオ～～～



台車のタイヤが擦れることで鳴り響く重低音を「ワンナリ」と呼びます。
町の大工さんが細かく調整しており、どの団の音が良いか競い合うほど大事にされています！

製作者の
つぶやき

前回の様子をビデオで観ました。上せ車の提灯の明かりは町ごとに個性があり華やかで、ワンナリの響きは胸に響く迫力があります。見た目と音の両方で楽しめるのが御木曳の魅力の一つだと思いました。



Q 帰り車とはどんな行事ですか？

A

行事の最後に町へ戻るのが帰り車です。
公式行事でありながら、雰囲気がお祭りモードになり、参加者が自分の持ち場を離れるなど、自由に楽しむ形で盛り上がります！



Q 見どころや魅力を教えてください！

A

神事からお祭りへと変わる一番にぎやかな時間で、普段は真面目な進行役や大人たちが楽しそうに歌う姿も印象的です。参加者が自由に盛り上がり楽しめるのが魅力です！



in 高柳商店街

オードブルを囲む参加者の皆さん



製作者の
つぶやき

御木曳は地元を離れて就職した若者たちが再び集まる機会でもあり、特に帰り車の時は学生の頃に帰ったように盛り上がり、みんなで楽しむ時間にもなっているようで、御木曳は地域にとって本当に大切な行事だと実感しました。

ここだけの 御木曳話 part 2

曽祢町の御木曳はっぴガイド



曽祢町では、毎回はっぴのデザインを変えて着用しています。前回の御木曳のはっぴデザインについて紹介します！



背中には「曽祢」の文字が入っています。実はこの文字は本部役員が書いた手書きの書道をもとにしており、はっぴにはこの書体をプリントしています。

はっぴの色も役職や立場によって異なり、白地に紫が本部役員用、紺色は一般の方でそれぞれの役割や立ち位置が一目で分かるようになっています。



黄色のはっぴは、どんでん場担当の方が着用しています。水場での作業に合わせて丈が短く作られており、乾きやすい仕様になっています。このように着る場所によってデザインの種類を使い分けるなど、作業に合わせた工夫がされています。



今回のデザインも
お楽しみに！



ここだけの 御木曳話 part 3

木遣りの後に味わう曾祢町グルメ



曾祢町では、木遣りの練習後や御木曳の本番後に、よくみんなで「ぎょうざの美鈴」に食べに行きます。



住 所：三重県伊勢市宮町1-2-1

🕒 営業時間：15時～22時(土日12時～22時)



カウンター席のみの小さなぎょうざ専門店で大人気のお店です。初めて方は是非、訪れてほしいです！

ここだけの 御木曳話 part 4

曾祢町の御木曳が抱える今の課題



準備や資金集めは大変ですが、御木曳の日はやっぱり胸が熱くなります。

曾祢町では世帯数が年々減少し、現在はかつての半分ほどになっています。そのため、御木曳を支える担い手の不足や、運営に必要な資金面での苦労が大きな課題となっています。皆で協力し合い、曾祢町の御木曳を次の世代につないでいくことが求められます。

1300年にわたり受け継がれてきた、20年に一度の「^{しきねんせんぐう}式年遷宮」。

第63回式年遷宮は、令和15年(2033年)に最も重要な儀式である
「^{せんぎょ}遷御の儀」が行われます。

その一部を担う奉仕行事——。それが「御木曳」です。

御木曳は、年齢や立場を超えて多くの人が力を合わせる場であり、
若者や子どもたちが地域の伝統を体で感じ、未来へつなぐ貴重な機会です。

伊勢のまちがひとつになり、歴史を刻むこの特別な瞬間が、

いよいよ来年・再来年に訪れます。

私たちは、その伝統を未来へつなぐため、これからも挑戦していきます。

《 御木曳の予定 》

令和8年 (2026年)	4月	^{おきひきぞめしき} 御木曳初式
令和8年 (2026年)	5月～7月	御木曳行事(第一次)
令和9年 (2027年)	5月～7月	御木曳行事(第二次)



ISEMIKKE_2025
Instagram



ホームページ

高田ゼミでは伊勢の飲食店や
イベントなどの情報を発信中
ぜひフォローしてください！

御木曳のまだ知らない魅力

企画・製作 / 立命館大学 食マネジメント学部 高田ゼミ 3回生

魅力発信班 (多田大希 大村翔愛 中島咲弥花 平松爽)

協力・写真提供 / 曾祢町奉曳団 奥田宗吾さん

発行日 / 令和7年(2025年)11月